

最上位標目:[アルカ文法史](#)

上位標目:[方言, 第十一期新生アルカ](#)

灼方語とは2008年12月9日、第二次アクセント改定後の**第十一期新生アルカ**で作られたフィクションの人工言語である。ファベル大陸北部ファルファニア(fArfania, アルバザードの西の隣国 falfaniAとは別である)、アステルト(astelt)、ディシリウス(dixirius)、ファベル大陸の北西島嶼部のアメルテ(amelte)、ガーヴィ(gaavi)、アルガーヴ(algaav)、そしてサヴィア大陸中部のミディート(midiit)に分布している。

(初出:[灼方語](#) 2008/12/09 (火) 16:57:48)

音声

音素

fが[p \]([無声両唇摩擦音](#))になる

vが[B]([有声両唇摩擦音](#))になる。

faava[p \ a:Ba]

rがc([歯茎ふるえ音](#))になる。

ridia[ridia]

アクセント

強弱アクセントを使う。

最初の音節に常に第二アクセントが置かれる。

後ろから二位までに(C)VVC, (C)VCCのいずれかがあれば、そこに第一アクセントを置く。

もし第一がなければ、音節の頭のアクセントが第二から第一に変わる。

アクセントの置かれない音節は弱く発音され、シュワーとなる。

ridia RIdia (リーデャ)

seren SEREN (セーレーン)セにも第二アクセントが置かれる。

farfania Farfania (ファールファニア)

avelant AveLANT (アーブラント)

文字

rをcの音で読むため、cの文字を使わない。

参考資料

セレン = アルバザード "[tulf.mp3](#)"

[人工言語アルカ](#) > [灼方語](#) 2008/12/09 7:57 GMT

灼方語の音声。

最上位標目:[アルカ文法史](#)

上位標目:[方言](#), [第十一期新生アルカ](#)